



営農NEWS



カンショ（サツマイモ）の食葉害虫ナカジロシタバやハスモンヨトウの発生に注意しましょう

カンショ（サツマイモ）畑では 8 月後半～9 月頃から、食害痕のある葉が目立つようになります。これは、ナカジロシタバやハスモンヨトウなどの幼虫が食害したため、これらが成熟幼虫になるとナカジロシタバは 4～5 cm くらいに、ハスモンヨトウでも 4 cm 前後の大型幼虫となり、カンショの葉を暴食して葉柄だけを残して食べつくすことがあります。

これからカンショの塊根肥大が更に進みますが、十分肥大する前に食害が多発生しますと減収を招く恐れがありますので、十分な注意が必要です。また、ナカジロシタバは餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になる場合があります。

病害虫発生予報 8 月号（県病害虫防除所）によると、7 月下旬現在、ナカジロシタバの発生は平年並ですが、長期 1 カ月の気象予報では、気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件であるため、8 月の発生量は平年並～やや多いと予想しています。

これらの幼虫は齢期が進んで成熟するほど、農薬に対する抵抗力が高まり、防除効果が低下するため、若～中齢の早い時期に薬剤防除することで安定した防除効果が期待できます。

8 月後半～9 月にかけて圃場の発生状況をよく観察し、発生に応じて防除に努めてください。

【ナカジロシタバの発生生態】

ナカジロシタバは年 3 回世代を繰り返します。例年は 9 月上旬頃から発生する第 3 世代幼虫の発生量が最も多くなります。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。ふ化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して、葉脈だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中にもぐってマユをつくり、その中で蛹になります。

＜防除対策のポイント＞

- 1 ナカジロシタバの防除時期は、丸く穴の開いた葉が散見される ～ 面積の四分の一くらいが食害されている葉が目立つ時期（幼虫の若～中齢期）に行います。また、ハスモンヨトウでは、かすり状に食害された葉が散見される ～ 幼虫が分散する前（若～中齢期）に薬剤散布を行いましょ。今年は平年より気温が高く推移しているため、早めに圃場を観察して、被害発生に注意してください。
- 2 薬剤防除の際は、幼虫が日中に潜んでいる場合が多い葉裏や株中にまで、薬液が十分かかるよう丁寧に散布します。

表 1 カンショ食葉害虫 ナカジロシタバ、ハスモンヨトウの主な防除薬剤（令和元年 8 月 19 日現在）

薬剤名	ナカジロシタバ	ハスモンヨトウ	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
アニキ乳剤	○	○	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	6
アクセルフロアブル	○	○	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	22B
トルネードエース DF	○	○	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	22A
フェニックス顆粒水和剤	○	○	2,000～6,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	28
オリオン水和剤 40	○	○	1,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	1A
トレボン乳剤	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内	3A
アグロスリン水和剤	○	○	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内	3A
マッチ乳剤	○	○	2,000～3,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内	15
ノーモルト乳剤	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	15
		○	1,000～2,000 倍		

注 1) 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注 2) 分類 15（ベンゾイル尿素系）の剤は、殺虫効果の発現に比較的時間がかかるため、散布時期を早めにしてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040